

山陰水処理

# 加湿機・大型冷凍機で需要増

## 島根で多様な水処理手掛け



新出 朋之社長

山陰水処理（社長＝新出朋之氏、本社・島根県松江市浜乃木5-4-28-1）は島根県を商圏として、水処理薬品・装置の販売とメンテナンスを主軸事業とする。工場の生産プロセスにおけるボイラーの水処理や水冷式大型冷凍機で使用するブロー水・冷却水の処理環境汚染を招く工場排水

の処理をはじめ、地下水をくみ上げて飲料水に変える水処理、上水道の赤水防止での薬品、機器による水処理、下水道や浄化センターでの下水処理などさまざまな水処理を手掛ける。各種水処理機器、装置の販売も行う。今期（2014年度9

月期）事業では、室内で使用する気化式加湿装置向けの軟水器や純水製造装置の販売が業績アップの一因となっている。また島根県内の工場熱源などで使用される大型冷凍機の更新案件に関連し

て、冷却水用水処理薬品の新規需要を開拓するなど地元で奮闘を見せる。同社は1979年の設立当初から水処理薬品・装置大手の栗田工業（本社・東京都新宿区）の販売特約店を務める。ボイラーメーカー大手のサムソン（本社・香川県観音寺市）の販売認定店も担っており、水処理薬品・装置や蒸気ボイラーなどの取り扱い実績が豊富。

冷却水系水処理薬品のほか、ボイラー水処理薬品、環境処理薬品、洗浄剤、水処理装置、水処理用機器、水質試験器・試薬など多様な水処理商品を扱う。栗田工業のノウハウを吸収。水処理問題に対し単一の装置や薬品、単一システムだけでなく、水質に応じてさまざまな角度から薬品や装置を総合的に組み合わせるシステム技術に磨きをかけている。

新出社長は今期業績について「3月までは消費税増税前の駆け込み需要で水処理薬品の販売が好調に推移した。また駆け込み需要効果なのか定かでないが、気化式加湿装置の水処理用途で使う軟水器や純水製造装置の販売台数が例年以上に伸びた。以前は加湿装置の力ルンウムスケール対策までの投資意欲を示さなかったユーザーが増税前に

投資に踏み切った感はある」と分析する。また今期は島根県内の工場で能力600ポットの吸収式冷凍機をターボ冷凍機に更新する案件に携わり、更新の際に従来使用していた水処理装置から薬品処理に改めたいとする設備ユーザーからの特需を獲得。水処理薬品の大口販売と定期納入ルートを築くことができた。

今夏以降の事業展開では、主要仕入先である栗田工業の新製品を訴求し実販を加速する考え。冷却水系の設備向けに開発したモバイル水質分析計「センシングMA」を活用した、迅速な水処理管理サービスの提案営業に注力する。ボイラーの水処理関連では、従来のスケール分散効果に加え除

去効果を併せ持つ多機能ポリマー素材「ドリームポリマー」を使用した水処理薬品を訴求し、島根県下での水処理ビジネス活性化の一助とする。その上で「販売代理店としてメーカーへの貢献を果たす」とした。

人材派遣サービス業で昨年設立したサンイントレジャー（社長＝同、本社・同）の事業展開については、派遣社員を手配する特定人材派遣業のほか、有料職業紹介事業許可をこのほど取得した。派遣社員の斡旋に加え、正社員を迎え入れたという企業向けには正社員候補者を紹介する事業も手掛けるようになった。人材派遣・紹介事業でも、顧客が求めるニーズに添えていく。